

## 〔 第 4 回富良野市障がい者計画策定市民委員会 議事録 〕

### ○福祉課長の進行で開会

### ○委員会開催 委員長が議長となり議事進行

### ○委員長あいさつ

### ○議事

(1) 第 5 期富良野市障がい者計画第 1 章から第 3 章 ～ 事務局より資料について説明

### 以下、委員からの提案、意見等

・策定された富良野市障がい者計画が今後どのように使われていくのか。まとめた課題や施策等についてどう実践していくかが重要。ただ策定した計画を配布するだけでなく、例えば、障がい者のアンケートや課題で取り上げられている交通手段の環境整備等について、市長や議員に対し施策として提言できれば大きな意味があるのではないかと。

・この計画の課題に対して、富良野市としてできる範囲の中で必須事業+ $\alpha$ として取り込みが可能であれば、前向きに取り組んで頂きたい。

・障がい者差別解消法が施行され、インクルーシブの考え方を学校で進めて行く中で、実は支援を受けていない子どもの理解が重要であった。支援を必要としている子どもに対して何の違和感もなく優しく手を握ったり、困っている子どもに手を差し伸べて一緒に活動する光景が見られるようになってきた。ところが学校というコミュニティの中で保障されていても社会に出た時に周囲の障がいに対する理解が低いと、孤独感や孤立感を持ってしまわないかと思う。関係機関や役職を持つ方については課題意識から理解する事ができるだろうが、その他多くの普通の市民が、これをどこまで理解するかが一番大事な事だと思う。そのための努力を具体的に計画の中に入れないと当事者だけの計画になってしまう。インクルーシブを本気で進めていくためには、健常者がいかに障がいのある方の抱えている困り感や課題を理解するかが前提となり、初めて共生、共存という発想に具体性が持てるのではないかと。

・合理的配慮について、この言葉を障がいを持たれた方がどのように受け止められるか。支援する側から見た言葉で「無駄がなく、効率的で、便利に」という意味合いを含み健常者側から見た言葉のように思われるので、この言葉の使い方は慎重にした方が良い。

・P. 28 特別支援学級の設置数と通級者数については、通級者数ではなく、在籍者数の誤り。富良野市の通級指導教室は、別に設置されている。

・子どもが成長する過程の中で偏見や差別の意識は強くなっていくため、小学校で保障されていたインクルーシブは、小学より中学、高校と課題は深刻になっていく。学年が進み中学に行く時に、学力の差や高校進学という現実と直面すると子どもはコンプレックスを感じて皆との関りを避けるようになる。富良野市では、子どもが抱えるコンプレックス等を軽減するために小学校に通級教室を設置しているが、中学校では設置されていなく、そういったケアやフォローはできていない。支援を必要とする子どもがうちに

こもってしまう問題は、大人になり社会に出たらもっと強くなるのではないかと考えられるため、具体策が盛り込まれればと考えている。健常者も障がいがある方も同じフィールドに立てるような計画になる事で皆の計画になり、次の計画やアンケートにも変化が出てくるのではないかと期待している。

- ・障がいの就労場所がない事が課題。富良野市の強みである農業や観光を生かし雇用の場を作り共に働くことで、障がいのある方が生き生きと活躍する事や自己肯定感を持つ事ができる。それが障がいの理解や社会への参画等の色々な問題解決につながるのではないかと考えている。

- ・子どもの課題は、母数が少なく見えづらい。あらゆるライフステージとして考えた時に子どもの課題も施策に反映されるようにしてほしい。

- ・災害時の対応については、富良野市においても身近な課題であり施策の中に特出しした方が良いと考える。

(2) 今後のスケジュールについて

## ○その他

(1) 次回開催について

- ・次回第5回委員会は、12月9日の開催日程を予定

**閉会**